

# フォレストニュース

植林が地球を救う  
平成26年(2014)夏季号  
号外用  
発行 高津啓洋

## タブノキ (楡の木)

クスノキ科タブノキ属 (常緑高木) 丸い木の実をつけます。シイ・カシとともに、照葉樹林の代表樹。沿海地に多く、大木は20m以上にもなり、積層雲のように葉の層が重なりあって樹冠をつくります。



今回、浜離宮恩賜公園を8月1日に訪ねると、ほんの少しだけ、タブの実が木に残っていましたが、ほとんどは鳥に食べられたか、下に落下してしま

ぶの木が多数あります。果実は漿果で球形。7~8月に黒紫色に熟し、古くから天より降る木と言われ、鳥が好んで食べ、種子散布したことによりです。



した。この公園は徳川家の別邸としてさらに宮内庁の離宮として使われてきたものが、東京都に寄贈されたものです。歴史があるだけに、ここにあるタブの木は大きく立派です。

### タブの木メモ

高さは20mほど。太さも1mに達する場合があります。若い枝は緑色で、赤みを帯びています。芽は丸くふくらみ、葉は枝先に集まる傾向があり、葉は長さ8-15cm、倒卵形。革質で硬く、表面はつやがあって深緑です。



大手門から入るとすぐに、三百年の松があり、その前に大きなタブの木があります。

花期は4-6月。黄緑色であまり目立たない花を咲かせる。7-8月ごろ球形で黒い果実が熟します。果実は直径1センチほどで、同じクスノキ科のアボカドに近い味がします。

また、人があまり通らない木陰には、実生の苗が無数に生えていました。公園全体にタ

日本では東北地方—九州・沖縄の森林に分布し、とくに海岸近くに多く自生しています。照葉樹林の代表的樹種のひとつで、各地の神社の「鎮守の森」によく大木として育っています。